

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520188

研究課題名（和文）ロマン主義時代の歴史小説構築への女性作家の寄与・貢献

研究課題名（英文）The Romantic Women Writers' Contributions to Historical Novels

研究代表者

鈴木 美津子 (SUZUKI MITSUKO)

東北大学・大学院国際文化研究科・教授

研究者番号：60073318

研究成果の概要（和文）：

オーエンソンやエッジワースなどのロマン主義時代の女性作家たちが、歴史小説という新たな小説ジャンルの構築に多大なる寄与・貢献をおこなったことを検証した。その過程で、女性作家たちが発展させた歴史小説がスコットの作品に、プロット、枠組み、テーマ、素材、手法などを提供したことを跡付けた。考察対象をさらに広げて、ヴィクトリア朝時代の歴史小説の分析もおこない、ロマン主義時代の歴史小説が多大な影響を与えていることを指摘した。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of the present research project is to illustrate how much Sydney Owenson, Maria Edgeworth and other women writers in the Romantic period contributed to the development of the historical novels in the age. I showed that their historical novels provided Sir Walter Scott with themes, plots, materials, and underlying structures for his novels. I also suggested that the historical novels in the Romantic age exerted a great influence over Charlotte Brontë's *Villette* and Elizabeth Gaskell's *North and South* in the Victorian age.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：歴史小説、シドニー・オーエンソン、サー・ウォルター・スコット、ロマン主義時代、マライア・エッジワース、アイルランド併合、植民地主義

1. 研究開始当初の背景

(1) 歴史小説は、19世紀初頭のいわゆるロマン主義時代に誕生、成立し、この時代にもっとも隆盛をきわめた小説のサブジャンルの一つである。しかしながら、歴史小説成立

を社会歴史的側面から分析した大著 *The Historical Novel* (1937)において、Georg Lukács は、Sir Walter Scott を歴史小説の創始者であると論じ、Scott の歴史小説の重要な先駆者として同時代の作家相互間の影響関係を考察

することは無意味である、と断じた。Peter Garside などが指摘しているように、Lukács の発言の呪縛は長期間にわたり、ロマン主義時代の歴史小説研究に多大な悪影響を及ぼした。というのも、歴史小説の起源や成立を探る際に、古典、ルネッサンス文学、18 世紀文学、ヨーロッパ文学そして当時の政治、哲学、社会思想などにもつばら焦点が当てられることとなり、その結果、当時盛んに出版された小説群、とくに女性作家達によって書かれた国民小説（植民地支配下にある小国を舞台にし、過去の民族の歴史や文化的栄光を称えるもの、歴史小説にきわめて隣接したサブジャンル）や歴史小説は、考察の対象から外される結果となったからである。

(2) Gary Kelly, Ina Ferris, Joseph W. Lew, Ian Dennis, Mary Jean Corbett などのロマン主義時代の女性作家を扱った論考において、歴史小説に関して部分的に言及されはするが、十分な議論がなされているとは言い難い。Peter Garside の *Waverley* の執筆年代を推測した刺激的論文において、Maria Edgeworth と Sydney Owenson の Sir Walter Scott への影響が指摘されてはいるが、歴史小説成立に関しては軽く触れられているにすぎない。Katie Trumpener の著作 *Bardic Nationalism* においては、歴史小説成立の事情が国民小説との関連で部分的に論じられてはいるが、議論が散発的で不満が残る。Maria Edgeworth と Sydney Owenson の影響関係を論じた Robert Tracy の論文は、国民小説の結末における結婚の象徴的意味を探った秀逸な論考であるが、歴史小説成立に関する議論は不十分である。国内では、応募者の研究発表、論文以外には、このテーマを扱ったものはまだ出ていない。

(3) 歴史小説の成立を考察する際、Marilyn Butler などの示唆的論考を除けば、ロマン主義時代の女性作家達の歴史小説への貢献を論じることはきわめて稀であり、包括的な研究にはほど遠い。したがって、ロマン主義時代の女性作家の歴史小説誕生・成立への貢献を考察すること、そして Sir Walter Scott に対する歴史小説の準拠提供のさまを検証することは、この時代の錯綜する小説群にある種の見取り図を提示することにもつながる。その意味で、本研究はロマン主義時代の小説研究に貢献するものであり、本研究によりこの時代の小説の作品理解がより深化し、明確になるものと思われる。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、以下のとおりである。歴史小説は、19 世紀初頭のいわゆるロマン主義時代に誕生し、この時代にもっとも隆盛をきわめた小説ジャンルの一つであった。しか

しながら、歴史小説成立を社会歴史的側面から分析した Georg Lukács は、Sir Walter Scott を歴史小説の創始者であると論じ、同時代の作家相互間の影響関係を考察することは無意味であると断じた。その結果、この時代に盛んに出版された小説群は、長い間考察の対象から外される結果となった。

(2) 本研究では、従来等閑視されがちであった Maria Edgeworth, Sydney Owenson, Jane Porter, Anna Porter, Jane West などのロマン主義時代の女性作家たちの作品を、時に Charles Robert Maturin などの同時代の男性作家の作品と比較検討しながら、仔細に分析し、歴史小説という新たなサブジャンル構築に女性作家たちが多大なる寄与・貢献をおこなったことを検証した。

(3) その検証の過程で、女性作家たちが構築し発展させた歴史小説が、Sir Walter Scott の *Waverley* (1814)、*Rob Roy* (1817)、*The Bride of Lammermoor* (1819) などのいわゆるウェイヴァリー小説に、小説のプロット、枠組み、テーマ、素材、手法などを提供したことを跡付けた。さらには、歴史小説執筆・出版が当時の女性作家にとっていかなる意味・意義をもっていたのかを考察した。

3. 研究の方法

(1) 19 世紀初頭に多数出版された国民小説、歴史小説のうち、Maria Edgeworth の作品はピカリング社刊行の全集により、また Sydney Owenson の作品のごく一部は、オクスフォード版、ブロードビュー版などにより、容易に読めるようになった。しかしながら、それ以外の作品は現在絶版になっている。そこで本研究に密接に係わると思われる以下の作品を大英図書館、ケンブリッジ大学図書館、オクスフォード大学図書館等からマイクロ・フィルム及びフォト・コピーの形で取り寄せた。

Jane Porter, *Thaddeus of Warsaw* (1803)
Sydney Owenson, *The Novice of St. Dominick* (1805)
Charles Robert Maturin, *The Wild Irish Boy* (1808)
Sydney Owenson, *Woman; or, Ida of Athens* (1809)
Sydney Owenson, *The Missionary: An Indian Tale* (1811)
Charles Robert Maturin, *The Milesian Chief* (1812)
Jane West, *The Loyalists* (1812)
Sydney Owenson, *O'Donnel: A National Tale* (1814)
Anna Porter, *The Recluse of Norway* (1814)

Christian Johnstone, *Clan-Albin: A National Tale* (1815)

Sydney Owenson, *Florence Macarthy: An Irish Tale* (1818)

Susan Ferrier, *Marriage* (1818)

Sydney Owenson, *The O'Briens and the O'Flahertys: A National Tale* (1827)

(2) 取り寄せたマイクロ・フィルムを、現像し、製本し、読みやすい形にした。

(3) 製本した作品を精読し、分析結果をカードに取り、また必用に応じてコンピュータにデータを打ち込んだ。

(4) 歴史小説と比較検討するために、同時代に執筆された国民小説に関する文献や論文を多数入手し、精読し、分析した。

(5) 英国に資料収集および情報交換に出向き、関連学会に出席し、研究のさらなる充実を図り、知見を深めた。

(6) 最終年度の平成 22 年度は、平成 20 年度、21 年度、22 年度に得た成果をもとにして、女性作家達による Sir Walter Scott への歴史小説の準拠提供のさまを明確化した。

(7) 以上の成果を、ブロンテ協会、オースティン協会、ギャスケル協会などで発表し、その後論文の形にまとめ、公表した。

4. 研究成果

(1) ロマン主義時代の女性作家達が構築した歴史小説の枠組み、プロット、テーマ、素材などがいかなるものかを具体的に跡付けた。次いで、当時の男性作家がいかなる影響を与えたのかを、Sydney Owenson、Maria Edgeworth、Charles Robert Maturin、Sir Walter Scott などの作品を取り上げて、分析し、明確にした。ロマン主義時代の女性作家が構築した歴史小説の枠組みの中でひととき重要なものが、「異文化体験の旅」と「背景の異なる者同士の結婚による融合」という枠組みである。この二つの枠組みは以下のとおりである。まず、歴史的現実（場所、時、社会的状況）が正確に提示される。さらに、小説の背景に、清教徒革命（1645）、ジャコバイト叛乱（1745）、アイルランド暴動（1798）などの歴史上の大事件、とりわけ民族・国家の存亡にかかわる政治的大事件が設定される。*The Wild Irish Girl* (1806)を例にとって言えば、小説の舞台はアイルランド北西海岸のコナハタ地方。時代は1790年代、統一アイルランド連盟が活躍していたアイルランド叛乱の時。遠景にはオリヴァー・クロムウェルの残

虐なアイルランド征服、過酷な植民地政策が潜んでいる。物語展開は基本的に以下の通りである。政治的優位にある国（たとえばイングランド）の男性が政治的に下位にある国、すなわち植民地支配下にある国（たとえば、アイルランドやスコットランド）に旅人としてやってくる。この旅行者は、幾度となく「見知らぬ人・よそ者・他国者」として描写される。政治的に下位にある国・植民地支配下にある国は女性によって、政治的優位にある国・宗主国は男性の登場人物によって、表象されることが多い。政治的優位にある国の男性が政治的に下位にある小国の女性の助けを借りて政治的下位にある国の固有の文化、伝統を理解し、その過程で自己認識に至る。ここまでが「異文化体験の旅」の枠組みである。この後、紆余曲折を経て、政治的・文化的背景の異なった二人は結婚する。*The Wild Irish Girl*では、イングランド人で、プロテスタントの貴族の次男ホレイショと、ゲール系アイルランド人族長の末裔の娘でカトリック教徒のグローヴィナが結婚する。民族的・宗教的・政治的・文化的背景の異なる結婚である。この結婚は、宗主国と植民地支配下の国の連合、融合を象徴的に示す。以上が「背景の異なる者同士の結婚による融合」である。

(2) Sir Walter Scott はこれら女性作家が構築したプロット、手法、枠組みなどを、*Waverley* や *Rob Roy* などのいわゆるウェイヴァリー小説群執筆の際に、彼の政治的な立場に合わせて修正・変容を加えつつ、基本的枠組みを継承した。すなわち、*Waverley* を例にとりて言えば、正当的なトーリー党支持者である Sir Walter Scott は、*Waverley* において、イングランドの保護下でのみ、イングランドとスコットランドの平和な協調は可能であるということ強調し、1707年のスコットランドとイングランドの併合を言祝いと指摘した。

(3) 歴史小説の執筆・出版が当時の女性作家達にとってきわめて重要な政治的意味を持っていたことを検証した。たとえば、急進主義作家 Sydney Owenson の場合には、連合法成立後の衰退したアイルランドを舞台にした *The Wild Irish Girl* や *O'Donnel: A National Tale* (1814) などにおいて、イングランドの植民地支配の悲惨さを強く訴え、Jane Porter の場合には、ポーランドを舞台に大国支配から政治的に独立しようとする小国の苦闘を描いた *Thaddeus of Warsaw* (1803) において、間接的に 19 世紀初頭のナポレオンの帝国主義的侵略戦争への批判を表明し、また保守主義作家 Jane West の場合は、清教徒革命時の混乱

を描いた *The Loyalists* (1812)において、間接的にフランス革命批判を展開した。以上のことを想起するとき、歴史小説というサブジャンルが、当時の女性作家達にとって、自己の拠って立つ政治的立場を表明する機会を提供していたこと、時には「思想の戦いの場」になっていたことを検証した。

上記の検証で得た知見の一端は、「アイルランドの併合を巡る言説—チャールズ・マチューリンの『アイルランドの族長』の場合」(2008)、「イングランドの出版業者と読者が果たした役割—国民小説『奔放なアイルランド娘』の誕生をめぐって」(2008)、「異文化体験の旅」と「結婚による融合」—シドニー・オーエンソンの構築した国民小説、地域小説の枠組み」(2008)という題で論文にまとめた。

(4) 本研究の遂行過程において、ロマン主義時代の女性作家によって構築された歴史小説が、実はヴィクトリア朝時代の小説にも多大な影響を与えていたという確証を得た。そこで、Emily Brontë の *Wuthering Heights* (1847)、Charlotte Brontë の *Villette* (1853) そして Elizabeth Gaskell の *North and South* (1855) などのヴィクトリア朝時代の作品を取り上げて考察した。得た知見の一端は、「シャーロット・ブロンテとロマン主義時代の歴史小説・国民小説—『ヴィレット』に見られる枠組みの変容」(2010)、「女性虐待—監禁、凍死、餓死、抑圧的な女子教育」(2010)、「ロマン主義時代の歴史小説と『北と南』」(2009)という題で招待講演や学会発表をおこなった。その後、論文の形にまとめた。また、『嵐が丘』とシドニー・オーエンソン」(2009)と題して、*Wuthering Heights* が Sydney Owenson の歴史小説、とりわけ、*O'Donnell: A National Tale* と *The O'Briens and the O'Flahertys: A National Tale* (1827)から、小説の枠組み、テーマ、素材などの点で、多大な影響を受けていることを明確にした。

(5) 今後の展望としては、本課題研究の成果を活かして、ロマン主義時代の女性作家が構築した歴史小説を同時代に活躍した男性作家、たとえば John と Michael の Banim 兄弟が *Tales by the O'Hara Family* (1825)や *The Anglo-Irish of the Nineteenth Century* (1828)の中で、いかに借用し、修正したかを検証したい。さらに、ヴィクトリア朝時代の男性作家の作品、たとえば、保守党の政治家で後に首相になった Benjamin Disraeli の *Conningsby* (1844)、*Sybil, or, the Two Nations* (1845)などに対して、ロマン主義時代の歴史小説がいかなる影響を与えたのか、枠組みや、テーマ設定、政治的・宗教的意図の観点から分析してみたい。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

1. 鈴木美津子、「シャーロット・ブロンテとロマン主義時代の歴史小説・国民小説—『ヴィレット』に見られる枠組みの変容」、日本ブロンテ協会編『ブロンテ・スタディーズ』、第5巻3号、2011年、印刷中、査読無
2. 鈴木美津子、「『嵐が丘』とシドニー・オーエンソン」、記念論文集編集委員会編、『佐野哲郎教授記念論文集』、巻数無、pp. 203-212、2009年、査読無
3. 鈴木美津子、「アイルランドの併合を巡る言説—チャールズ・マチューリンの『アイルランドの族長』の場合」、『英国小説研究』、第23冊、pp. 81-102、2008年、査読無

〔学会発表〕(計5件)

1. 鈴木美津子、「シャーロット・ブロンテとロマン主義時代の歴史小説・国民小説—『ヴィレット』に見られる枠組みの変容」、日本ブロンテ協会2010年大会招待講演、2010年10月16日、近畿大学
2. 鈴木美津子、「奢侈、放縦、享楽—摂政時代の申し子」、日本オースティン協会第4回大会、2010年7月3日、中京大学
3. 鈴木美津子、「ロマン主義時代の歴史小説と『北と南』」、日本ギヤスケル協会第21回大会、2009年10月4日、日本大学

〔図書〕(計5件)

1. 鈴木美津子、『エリザベス・ギヤスケルとイギリス文学の伝統』、大阪教育図書、pp. 347-357、2010年
2. 鈴木美津子、『ギヤスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』、溪水社、pp. 329-346、2010年
3. 鈴木美津子、『読者の台頭と文学者—イギリス十八世紀から十九世紀へ』、世界思想社、pp. 99-146、2008年
4. 鈴木美津子、『女性作家の小説ジャンルへの貢献と挑戦—デイヴィス、ヘイウッド、エッジワース、オーエンソンの場合』、英宝社、pp. 105-152、2008年

6. 研究組織

(1)研究代表者

鈴木 美津子 (SUZUKI MITSUKO)

東北大学・大学院国際文化研究科・教授

研究者番号：60073318